



H 2 2 年 2 月 1 2 日

# さくしん

(校長室だより 20)

下氷鉤小学校

校長 大内 徹

「一月はいき、二月はにげ、三月はさる」と学校ではよく言われますが、二月も半ばとなりました。三日には一学年の児童達が「鬼は外、福は内」と明るく元気な声で節分の豆撒きを行っておりました。豆撒きの由来は、宇田天皇の昔、鞍馬山の奥の僧正谷という所に住んでいた鬼神が、都に乱入しようとしたので三石三斗の豆を煎って、鬼の目をつぶして災厄をのがれたということだそうです。店で買ってきた落花生についていた可愛らしい鬼のお面を見ていると、戸外に追い出された鬼は一体どこへ行ってしまうのやら…。ちょっと可哀想な気持ちにもなりました。

さて、この冬は例年になく雪が多いような気がします。つい先週末も雪が降りました。「また雪か…ゆっくり寝ていたいのになあ…」と眠い目をこすりながらも起きて、朝から玄関先や路上の雪かきで汗を流しました。いくらか腰に疲労感が残ったものの、雪かきの後はあたかも心の中も除雪されたようなすっきり感を覚えました。「鬼は外」ではありませんが、追い払って除くべきは、自分の心の中の「面倒くさがり鬼、怠け鬼」だったように思いました。そのことを白い厄介物が教えてくれました。季節の移り変わり時にある年に四回の節分だけでなく、折りにつけて心の中に大なり小なり様々な鬼が隠れ住んでいないか、自分自身のみならず、子ども達にも心の中を問い、振り返らせることが大事だなと感じました。

家庭によって状況は様々かと思いますが、日々お子様を育てていく中では、毎日ニコニコしてられることばかりでなく、それこそ心を鬼にして子どもを叱ったり、厳しく指導に当たったりせねばならぬこともあることかと思えます。恥ずかしながら、我が家におきましては息子や娘を叱りつけたり、厳しい措置をとったりすることもございました。「分からないならお月様と相談して聞いておいで」と言って外に追い出したら、「お月様は出ていなかったよ」と娘が戻ってきたこともございました。親が拳を奮うと幼児虐待の罪に問われることもございますが、お子様の言動でこれは正さねばと思う時には、しっかりと叱り指導することも必要でしょう。親が我が子を叱らなくなってしまっただけでは、親としての義務を怠ることになると常々考えております。ただ感情的になって怒鳴りつけて怒ったり、体罰を施したりするのはよくありません。事実に基づいてなぜそうせねばならぬのか、なぜ許されないのかを子どもの納得のいくように粘り強く指導することが求められます。躰けるべきを早いうちに躰けておかないと、思春期に入って子ども自身が大変になります。そして、親はもっと苦労することになります。

さて、2/5(金)には久しぶりの校長講話がありました。児童には「集中力を高める」ということでお話をしました。(以下は語尾などを再編集した概要です)★★昨日、4、5年生の縄跳びを見ていると、どの組も一生懸命に一本の縄に集中してリズムカルに跳んでいました。私はああいうのが苦手なので、子ども達はすごいなと思いました。校長講話では、私が持ってきたけん玉を6年生のSさんにやってもらいました。何十回も続けてできるSさんに拍手が送られました。なぜこんなにできるのか不思議です。Sさんに「何を心がけてやっていたの」と尋ねてみました。「何も考えずに、そのことだけに集中していた」という答えが返ってきました。集中ということは、一つ、そのことだけに気持ちを向ける、他のことは考えない、目も、心も、体全ての神経をそのことに向けるということです。いくら技が優れていても集中していないと失敗して

しまうのです。そんなこと当たり前だと言われてしまいそうですが、やってみると難しいものです。人間というのはみんなこの集中力があるはずなのですが、いつでも集中できるかという、そうでもないようです。毎日の生活を振り返ってみると、遊びやテレビに集中はできても、授業中はダメな子どももいるようです。それでは困ります。どうも人のお話を集中して聞くのが苦手な人がいるようです。かく言う私はどうかというと、小学生の頃は、おしゃべりをする方ではなかったと思いますが、なかなか先生のお話集中できない時もありました。なんとなく席に座っているうちに、他のことを考えていたり、手悪さをしていたり、窓の外の景色に気をとられたりしていることさえもありました。授業中に先生や友達の話していることが、声として聞こえていても、話の中身が頭に全く何も入っていないことがよくありました。それが、話を聞いていないと自分が困るし、損をすることも沢山あることにだんだん気づき始めてから、どうしたかということ、これはだれかに教わってやるようになったことですが、まず先生や友達の顔にいつも目を向けて、目を離さないように努力しました。先ほどのけん玉と同じです。また、話を聞きながら、先生や友達は何を言いたいのかな、何を言おうとしているのかな、また、どんな気持ちで話しているのかなと考えながら先生や友達の話に耳を傾けるように努力してきました。そのせいか、大人になってからはだいぶ集中して人の話を聞くことができるようになってきたように思います。私は時々英語で外国の方と話をすることもありますが、英語の音を聞きとろうとはしません。英語の音だけを聞き取ろうとしているとかえって話の内容が入りずらく、つかみにくくなることがあるのです。相手の目や表情、身振りや手振りを見ながら、何について話そうとしているのかなと思って耳を傾けていると、英語が日本語と同じように話の内容として頭に入ってくるのです。それだけ、相手の方に顔を向けて、自分の気持ちを傾けながら聞くということは大事なことです。そして、そうすることは相手の気持ちや心を大事にしていることになるのです。

会議に出ていて遠くの方の声が聞こえにくい時には、もう少し大きな声で話していただけるように丁寧をお願いします。また、大切に忘れてはいけない内容の話は、短い言葉で書き留めながらメモをとって聞きます。人が話をしているときに、隣の方と話をしている人や関係ないことをやっている人を見たこともあります。はっきり言って、それは話をしている人に対して大変失礼なことです。だれでも、自分が話をしようとしているのに、相手が聞いてくれなかったら気分が悪いですよ。子どもであっても大人であっても話を聞くときには話をしている方に体と目、耳、そして心を向けて聞く。それが礼儀やマナーであるし、そのことができなければ、しっかりと学んだり身につけたりすることもできないのです。

あとわずかで中学生になる6年生は、中学校に行っても困らないように人の話に心を傾けて集中して「聴く」トレーニングをしてほしいです。1年生から5年生のみなさんは、わからないことがあってもひとまずはじっと集中して黙って話を聞く、そして後で分からない点を聞くように努力しましょう。3月には6年生にとって一生に一度の大事な卒業式があります。沢山のお客様もおいでになります。人の話に目と耳、そして心を集中させて、下氷鉤小学校の子ども達は聞く態度が立派だなあ、集中力があるなあと言われるくらいに頑張ってみましょう。★★

先日校長会から学校に戻ってくると、一年生が下校する所でした。「さようなら」と声をかけていると、帰りがけの女の子が「お帰りなさい」と私に声をかけてくれました。鞆を提げて私が帰ってきたのを見ての、自然に出てきた一言でした。以前、中学校に勤務していた頃に、2、3年生がそのように声をかけてくれたことはありましたが、まさか小学校一年生がそこまでできるとは思いませんでした。外の寒さから戻った私にとっては、本当に心温まる一言でした。きっと、この子は、帰宅時にはお母さんに、「お帰りなさい」と優しく迎えられているのであろうし、仕事から帰っておいでのお父さんも、そのように迎えられているのだらうと思いました。何気ないぬくもりのある一言、明るい笑顔と優しい声がけが人の心を温め、人の心を明るくし、福をもたらすことを確認した一時でした。笑いの門に福来たる！ 明るく健康的で、笑顔のある家庭を築いていきたいものです。

